

ホシケン通信

「所得1.5倍へ、全社で挑戦」

中計発表 「Break Through Innovation」 ホシケン



▲星野社長

内装材・インテリア商品の総合商社として北関東トップクラスの実績を誇るホシケン(星野貴洋社長)は1月31日、社員約100人を集め、第10次中期経営計画発表会を開いた。モットーは「Break Through Innovation 2026―2028」。全社員で目標を共有し、優先事項を明確にすることで、主体的に動ける組織づくりを目指す。61期(2026年2月)からは営業エリアを2つに再編。Iエリア(太田、宇都宮、小山、つくば)とIIエリア(高崎、前橋、東松山)に分け、責任体制の明確化を図った。

星野社長は、売り上げ・利益目標の位置付けについて、社員の昇給を実現するための原資確保が目的であり、最終年度には所得を1.5倍に引き上げたい考えを示した。その上で、顧客満足度と従業員満足度の両立を目標に掲げ、「大きな飛躍のチャンス。力を合わせて達成しよう」と社員に呼び掛けた。

直江正博専務は、掲げた数値目標について「市場環境を考えれば、達成が求められる水準」と指摘。今回の中計は、従来の延長線上の改善では到達できないとして、「Break Through Innovation」の実現に向け、策定段階からイノベーションマップを作成したことを明かした。計画期間中に賃金上昇とDX(デジタルトランスフォーメーション)の推進を両立させる方針だ。

続いて、山岸秀毅経営企画室室長が中計の概要を説明。策定の理由として①力が分散しないよう同じ方向を向く②優先事項・重点課



▲社員約100人を集め、第10次中期経営計画発表会を開いた

題の明確化③成果の見える化④自発的に動ける組織づくり―の4点を挙げた。現状については、物価高騰が続く中で昇給原資の確保が不可欠であることや、既存のビジネスモデルが限界に近づき、新たなモデル構築が求められているとの認識を示した。こうした課題を踏まえ、今後は売り上げ・利益の成長と組織力強化を両輪に、財務の健全化を進める。数字面にとどまらず、「ホシケンで働いて良かった」と実感できる職場づくりにも注力する方針だ。

この後、各部門の責任者が具体的な施策を発表。午後の部では新入社員紹介や無事故無違反者表彰、全体研修が行われた。

同社は内装工事業者約2000社との取引基盤を持ち、25年に創業120周年を迎えた老舗企業。

なお、2月2日には栃木県小山市に「小山店」(大出典充店長)を開設した。物流力と地域対応力を強みに、今後も内装・インテリア分野での存在感を高めていく。

【本部】
前橋市城東町5-657-18
027-226-1184

